

武漢大学留学報告

2015年3月31日

医学部4年 板坂卓穂

私は今回、2015年3月2日から3月27日まで、中国の武漢大学医学部で勉強させて頂くことができました。そこで学んできたことを、簡単にですがここで報告させていただきます。

①武漢市と武漢大学について

武漢市は、上海市から西へ約800kmの場所にあります。面積は約8500km²で、これは福島県の中通りと浜通りを足した面積に似ています。人口は約1000万人です。福島と比べれば気温はかなり高めで、私が滞在した期間は雪を見ることはありませんでしたし、3月20日頃には桜が満開になっていました。

武漢市に来て最初に感じたことは、やはり人の数や車の量が半端ではない、ということです。建設中のマンション等もたくさんあって、非常に活気があり、これからさらに成長を続けていく都市なのだと感じました。ただ、車の量が多すぎるせいでもあるのか、交通ルールに関しては日本と大きく異なる印象を受けました。車は赤信号でも右折できる、という、日本人からすれば謎なルールがあるため、横断歩道を渡る時には常に細心の注意を払わないと轢かれてしまいます。また、日本では、もし歩行者が横断歩道を渡っていたら、車は歩行者が渡り終わるまで待っていなければなりません。中国では横断中の歩行者に向かって車が突っ込んできます。私も慣れるまでは何度か危ない思いをしました。

武漢大学医学部は、約2700人の学生に加え、大学院生も約2000人と、とても規模が大きいです。日本で医学部といえば、主に医学科と看護学科を指し、卒業後は医師や看護師になる人が大多数である印象ですが、武漢大学医学部は違います。基礎医学や臨床医学、看護学だけではなく、薬学や公衆衛生学なども専門的に学ぶことができるため、将来医師や看護師にならない人も多く在籍しているのが特徴です。また、留学生が多く、国際色豊かです。私達も、タイから来た留学生と仲良くなり、一緒に出かけたり、ご飯をつくったりと大変お世話になりました。

②基礎上級について

私は留学中、公衆衛生学院の He 教授の研究室に所属させて頂き、中国の大気汚染をテーマに調査を行ったり論文を読んだりしていました。医学部の学生に対して大気汚染に関するアンケート調査を行い、それを集計して、SPSS で解析しました。その結果、武漢の多くの学生は、大気汚染が健康に与える影響をよく知っていたり、大気汚染の改善に意欲的であったりと、大気汚染に対して大きな関心を持っていることがわかりました。ただそれと同時に、大気汚染がひどくなっても、マスクをするなどの予防措置をとるのは面倒だと考える人も多いことがわかりました。実際、武漢の空気はお世辞にもきれいとは言えませんでした、街中でマスクをしている人はほとんど見られませんでした。国や自治体が主導となって、大気汚染そのものを減らせるよう努力することはもちろん大切ですが、実際に大気汚染から身を守るためには、個人個人が予防への意識を高めていくことが大切だと感じました。

また私は、英語で行われる公衆衛生学の授業にも参加しました。予防医学を専攻とする学生向けの授業で、食の安全について学びました。日本で学んだ公衆衛生学の授業の内容とは異なる部分も多く、新鮮な気持ちで授業を受けることができました。

③生活について

留学中は、私は大学内のホテルに滞在していました。武漢大学の学生はほとんど、大学内の寮で生活を送っているそうです。学内には、朝昼晩使える食堂や、多くの日用品が売られている売店もあり、学内で生活を完結させられるようになっていて、学生が勉強に集中できる環境が整っているように思いました。私は平日の朝 9 時から夕方 5 時まで研究室で勉強する一方、土日は完全にお休みを頂いて、友達や先生方と食事に行ったり、街中を観光したりしていました。

食事に関しては、基本的には三食とも学内の食堂で食べていました。一食 200 円以下で食べることができ、品数も豊富で、味もなかなかおいしかったです。ただ、基本的には中華料理しかないので、脂っこいものも多く、胃がもたれるように感じる時もありました。また、日本で食べる中華料理よりも全体的に味付けが辛く、唐辛子や胡椒が大量に使われている印象を受けました。

昨年医大から武漢に行った先輩方に紹介して頂けたこともあり、武漢についた後、早い段階からたくさんの友人をつくることができました。彼らと話すことで、日中間にお

ける様々な文化の違いを理解することができました。例えば、日本では医師という割と高い給料を頂ける職業であるというイメージがありますが、中国では医師の給料はかなり低いそうです。また、同じ医師の間でも、専門的な技術を持つ医師(手術の上手な外科医など)の給料は、そうでない医師の給料に比べてかなり高く設定されているとのことでした。加えて、学位が非常に重要視されていて、海外の著名な大学で博士号を取得すると、高い給料がもらえるそうです。そのため、英語を熱心に勉強している学生も多いようでした。また、医師国家試験の合格率は40%程度に抑えられていると知って非常に驚きました。

中国の方と英語で会話していて感じたのは、中国人はみな英語の発音がとてもきれいだという事です。私の勝手な憶測ですが、中国語の発音は大変複雑で難しいので、それに慣れている中国人は、英語の発音も身につけやすいのかなと思いました。逆に、日本語の発音はとてもシンプルだと思うので(文法は難しいですが)、日本人にとって英語の発音というのは大変難しく感じるのかなと思いました。

以前武漢から医大に勉強に来ておられた先生方にお会いする機会も多くありました。特に、中南病院腫瘍外科のFeng先生(昨年医大の臓器再生外科学講座にいらした先生)には、何度も食事を御馳走して頂いたり、李白の詩で有名な黄鶴楼をはじめ多くの観光地に連れて行って頂いたり、大変お世話になりました。改めて感謝申し上げたいと思います。

④まとめ

今回の留学を通して、日中の文化の違いについて良く理解できたのと同時に、今まで日本で暮らしている上では常識だと思っていたことが、他の国では全く通用しないという事を実感することができ、大変勉強になりました。また、日本という国がどれだけ住むのに快適な国であるか再認識でき、今まで以上に日本の事が好きになりました。将来は私も医師になり、少しでも日本社会の役に立てるよう、勉強を続けていきたいと思いました。

最後になりますが、今回の留学にあたりまして、菊地理事長先生をはじめ、免疫学講座の関根先生、企画財務課の国分様、ご尽力頂いた全ての皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。これからも、福島医大と武漢大学が末永く交流を続けていけることを願っています。